

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

〇〇〇×「インターネット」＝？

恒例となった「サラリーマン川柳」(第一生命)の投票結果が先日発表されました。「あるある」ばかりでしたね。見事1位に選ばれた川柳は「うちの嫁 後ろ姿は フナッシー」とのこと・・・私は怖くて言えないですが・・・。他にも思わず「ニヤリ」としてしまう川柳や上手く読んでいるなあ～という川柳がたくさんありました。

第一生命サラリーマン川柳HP

<http://event.dai-ichi-life.co.jp/company/senryu/>

さて、今月はビジネスにおけるインターネット活用について記していこうかと思えます

◆最近目にするキーワード「IoT」って？

まず、IoTを説明しましょう。IoTとはInternet of Thingsの略で「モノのインターネット」と訳されます。「モノのインターネット」とは、パソコンだけがインターネットに繋がるだけではなく、テレビ・デジカメなど家電や小売店のレジ・エレベーター・カルテなど、モノがインターネットに繋がることを言います。

例えば、スマホやタブレットでのテレビ番組を予約、エレベーターの運行状況のモニタリング、POSレジの情報収集(これは昨今言われているビックデータとも関係がありますね)、電子カルテ、レクサスのテレマティクスサービス/G-Linkなど枚挙にいとまがありません。それらはインターネットを介して情報をやり取りしています。もうかなりのモノがインターネットに繋がっていることがわかりますね。

最近、ネットや雑誌でキーワードとして「ビックデータ」と共に「IoT」や「モノのインターネット」を見かける機会が増えてきました。

さて、ビジネスを推進する立場の方はこの大きな動きをビジネスで生かせないのか？を頭の中で常に意識しておく必要があります。「IoT」や「モノのインターネット」というキーワードはさておき、ビジネスの新展開を検討するうえで、モノやコトがインターネットと密接に結びついていく時流は無視できない状況となっています。

既に例示しましたが、テレビ、デジカメ、POSレジ、エレベーター、カルテ、車などこれまで既存にあったモノとインターネットが結合して、新しいコトやモノそしてサービスが生まれています。これからは、さらにこの「結びつく」動きは加速していくことでしょう。

◆組み合わせを考える癖をつける

自社の何かをインターネットと結びつけることはできないのか？インターネットと結びついた何かを活用することはできないのか？といった、「自社の強み・資産または渴望」と「インターネット」を組み合わせる考えることが重要です。

スマホを持つ人が多くなったことで、ITを敬遠するというよりはIT特にインターネットに関するITリテラシーが高い人が多くなってきているようです。スマホを活用しているだけで様々なインターネットサービスや最新の情報を享受しています。このように身近な状況からでも新たな発想が生まれてくる可能性があります。常に「組み合わせる」を意識しておきたいところです。

ちなみに「組み合わせる思考力」を鍛えることもできます。有名なトレーニング方法は、雑誌や新聞に掲載されている、特に関係していない単語をつなげるという方法です。そうすると無視できないマッチングが現れるかもしれません。(参考: ずるい考え方(木村尚義著))

◆「組み合わせ」の例

昨今、「組み合わせる」について自前で組み合わせるのではなく、企業同士の強みを掛け合わせて、企業の「強み」×「強み」をベースに「強み」×「インターネット」と展開していく動きがあります。

大企業がインターネット上のサービスに強みを持つベンチャーと組むこともあるようです。また、ベネッセやZ会といった教育関係の企業も、オンライン上の学ぶサービス(プラットフォーム)と協力しあい、従来の紙とは別のオンライン教育サービスを手掛けています。(日経コンピュータ 2014 5.1号より)

インターネットを活用したサービスについてアンテナを張り、情報を収集すること。自社の強みや渴望とインターネットを組み合わせるようなことができるのかを考えることが今後のビジネスを新展開するうえで必要になることだと、感じる次第です。

「本は考える為のサプリメント」(その 38)

最近、近所に太陽光発電のパネルが並んでいる場所を良く見るようになりました。敷地が広いところも狭いところも所狭しとパネルが並んでします。なぜ、この様に太陽光発電の設備が沢山出てくるのでしょうか?それは、発電した電力を売電し利益をあげることだと思っていました。しかし、さらに減価償却費による節税効果があるようです。

本書は「減価償却」というタイトルですが、「減価償却」を活用したタックスマネジメントの指南書です。著者は元東京国税局部長。税務署視点(税を徴収する側の視点)でも記されています。

これらから来る増税時代(消費税8%→10%<2015年10月予定>・相続税の基礎控除額の引下げと最高税率50%→55%<2015年1月1日>)に備え、もっと賢く税金と付き合う必要性を訴えています。その、答えの1つとして「減価償却」を使いつくすこと、と記しています。

本書は、ページ数の限りがある親書サイズなので、記載された情報量は適切で、情報に飲み込まれることがないと感じました。また、例を用いながら分かりやすく記されており、とても読みやすい本でした。(生き物が償却対象にできることは知りませんでした。)



「スゴい『減価償却』」 (杉本 俊伸+GTAC 著)

◇実は、自分や自社の税金は、自らコントロールできます。それがタックスマネジメントです。(中略) タックスマネジメントとは、端的にいえば納税の額とタイミングをコントロールすることです。

◇減価償却の活用とは課税を先送りにしていくことです。(中略) 課税の繰延のメリットは、まず二つあります。
①課税を先送りにした時点では、節税額分の無利息融資を受けたことと同じ効果
②課税を先送りにすると、元本の運用益が非課税になるのと同じ効果

◇課税の繰延は課税のタイミングを遅らせているだけで、税金自体を減らしているわけではありません。(中略) そして投資する資産によっては税金そのものを減らす節税も可能です。(中略) 課税の繰延をして最終的に節税ができるかどうかは、投資額が回収できるかどうかにかかっている。

◇課税の繰延が役に立つケースとしては、
①特需等により一時的に所得が増大するが、将来の所得に不安がある場合
②非上場会社の株価の評価引き下げのために、一時的に所得を少なくしたい
場合などが考えられます。

◇減価償却費の赤字は対銀行でも問題ない。(中略) 減価償却費は社外に流出しない会社の費用だから。

本書の内容を少し記しましたが、興味のある方は熟読することをお勧めします。特別償却・資本的支出の判断・相続対策・海外不動産・・・などたくさんの情報が詰まっています。(もちろん、節税の実施は自己責任でお願いします。)

編集後記

暑いですね。6月頭なのに昼間は夏を感じます。今はまだカラッとしていますが、これから梅雨となり蒸し暑くジメジメを想像するだけで憂鬱になります。

今回の話題はインターネットに関するものでした。もうスマホをお持ちでしょうか?私はまだまだインターネットを介したサービスを活用していません。趣味に仕事に色々活用していこうと思った次第です。(石)